

町道改良工事に伴う遺跡確認調査

—町道福地船代南線及町道田中南線改良工事に伴う遺跡確認調査—

1992年4月

太子町教育委員会

例言

- 1 本書は、町道福地船代南線及、町道田中南線改良工事に伴う遺跡確認調査の調査報告である。
- 2 調査は、平成3年11月18日～22日にかけて実施した。
- 3 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次、田村三千夫、海野浩幸が担当した。
- 4 本書の執筆・編集は、田村、海野が担当した。
- 5 調査・整理作業にあたっては、太子町シルバー人材センター、伊藤慶子、岩村千穂、小山真紀、山本和子各氏の協力を得た。

目次

図1	調査位置図及周边主要遺跡分布図	1
I	町道福地船代南線改良工事に伴う遺跡確認調査	2
	調査に至経過	図2 試掘坪設定図 写真1
	調査の概要	図3 遺物実測図
	まとめ	図4 土層断面図
II	町道田中南線改良工事に伴う遺跡確認調査	7
	調査に至経過	図5 試掘坪設定図 写真2
	調査の概要	図6 遺物実測図
	まとめ	図7 土層断面図

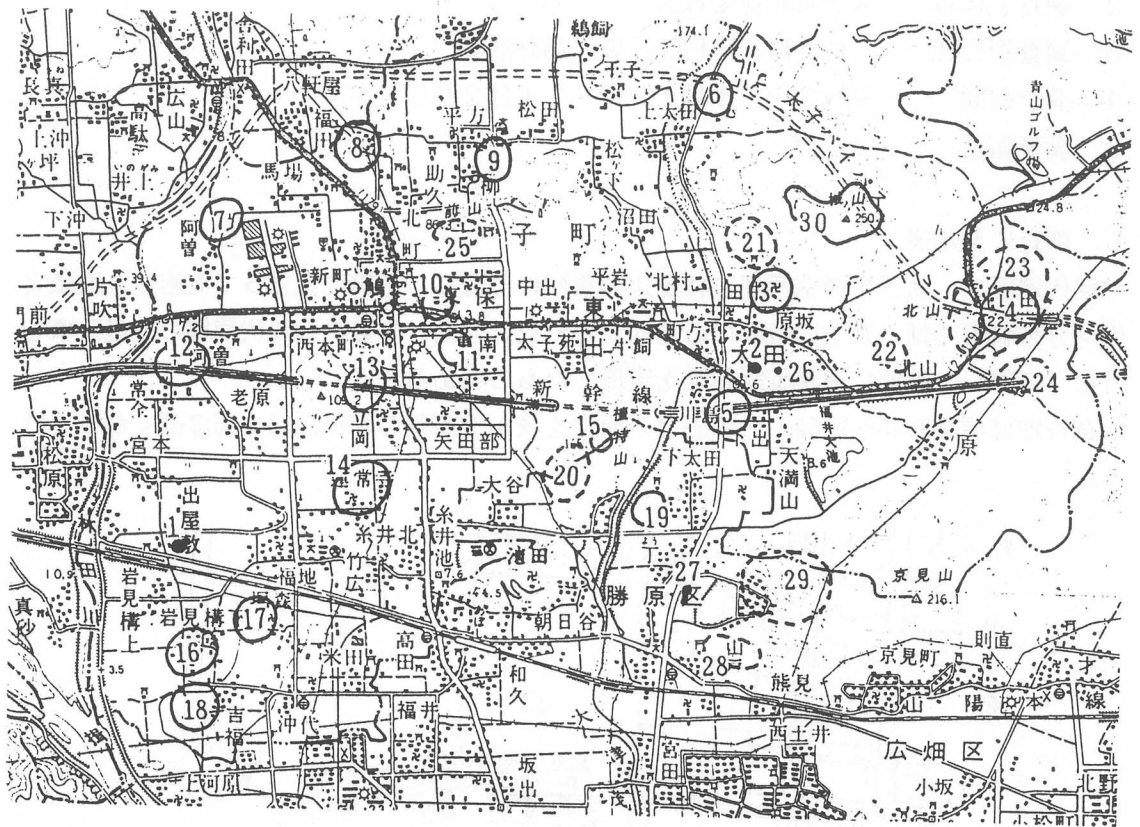


図1 調査位置図及周边主要遺跡分布図

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 1 福地船代南線調査地 | 11 東南遺跡 | 21 黒岡古墳群 |
| 2 田中南線調査地 | 12 常全遺跡 | 22 郷ノ谷古墳群 |
| 3 太田田中遺跡 | 13 立岡遺跡 | 23 山田古墳群 |
| 4 山田遺跡 | 14 蓮常寺北遺跡 | 24 白毛古墳群 |
| 5 川島遺跡 | 15 檀特山遺跡 | 25 東保山古墳群 |
| 6 上太田亀田遺跡 | 16 岩見構遺跡 | 26 黒岡山古墳 |
| 7 高屋堂遺跡 | 17 福地相坂遺跡 | 27 瓢塚 |
| 8 城山遺跡 | 18 吉福遺跡 | 28 山戸古墳群 |
| 9 平方遺跡 | 19 丁柳ヶ瀬遺跡 | 29 丁古墳群 |
| 10 鶴遺跡 | 20 檀特山古墳群 | 30 楯岩城跡 |

I 町道福地船代南線改良工事に伴う遺跡確認調査

- 1 所在地 兵庫県揖保郡太子町船代字中ノ丁181番地
- 2 調査主体者 太子町教育委員会
- 3 調査担当者 三村修次、田村三千夫、海野浩幸
- 4 調査期間 平成3年11月18日～11月20日
- 5 調査面積 26m²

6 調査に至経過

船代地区は、太子町の南西部で林田川の東岸に位置し、工事に先立って実施した埋蔵文化財分布調査では、若干の遺物の散布が見られた。今回、町道福地船代南線の改良工事を行なうに際し、事前に遺跡確認調査を実施したものである。

調査地は標高9.18～9.68mの水田で、町道を挟んで南側の水田は50cm程度低くなっている。



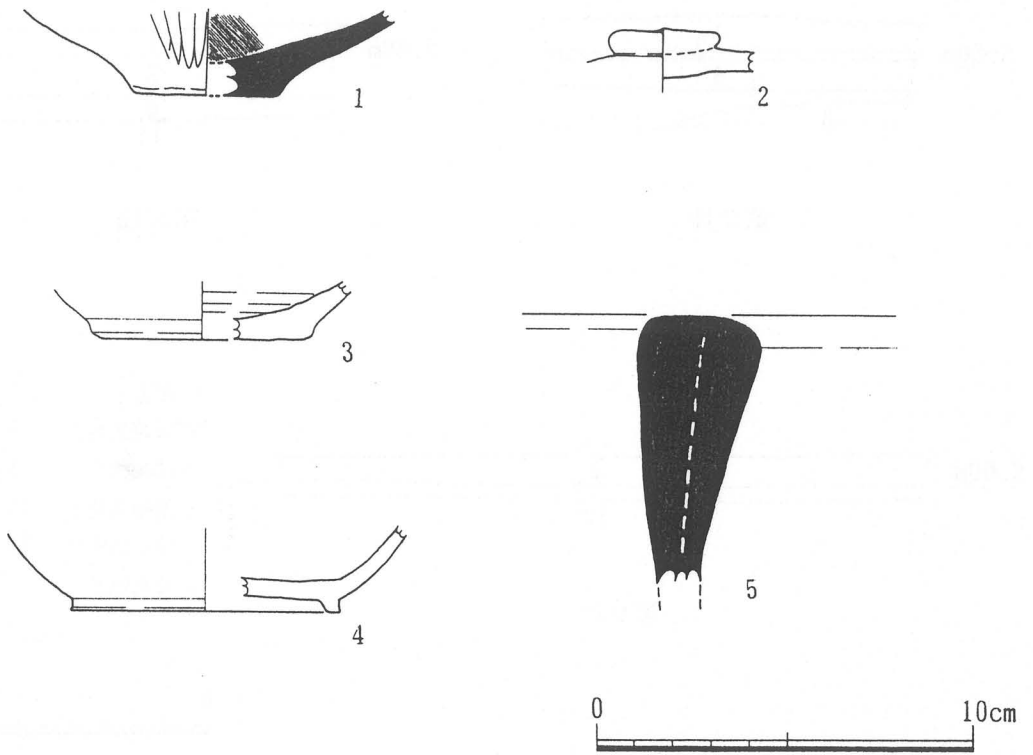
図2 試掘坪設定図 (S=1/2500)

7 調査概要

調査は工事路線内に試掘坪1箇所を設定し、遺構が確認された場合は随時拡張する事とした。調査の結果、北側に設定した坪では、耕土(20cm)、灰黄色客土(6～10cm)、淡黄褐色土(10～30cm)で褐色砂礫或は褐色砂となっている。南側の一段低い水田に設定した坪では、耕土直下で砂礫となっている。砂礫は西側方向に落ち込んで行き、その上層に褐色砂の堆積が観察された。各坪からは、若干の遺物が出土したが、遺構は検出されなかった。

8 出土遺物

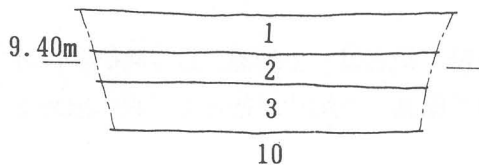
遺物は、淡黄褐色土から褐色砂礫上面で弥生式土器、須恵器、土師器、近世陶磁器片等が混在して出土した。いずれも流れ込みと考えられる摩滅した細片が殆どで、図示出来るものは少なかった。



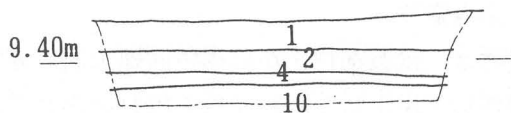
1 2 5. 第8坪出土、3. 第10坪出土、4. 第6坪出土

1. 弥生式土器、2~4. 須恵器、5. 産地不明陶器

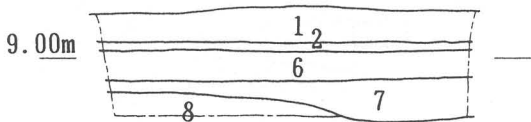
図3 船代出土遺物実測図



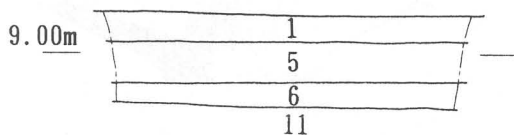
第1坪



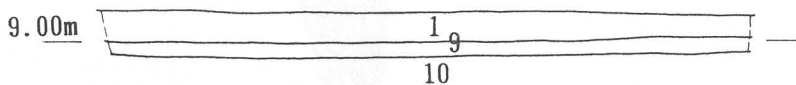
第3坪



第7坪



第10坪



第9坪

- | | |
|----------|------------|
| 1. 耕土 | 7. 淡黄褐色砂質土 |
| 2. 灰黄色客土 | 8. 灰色砂 |
| 3. 淡褐色土 | 9. 黄褐色砂礫 |
| 4. 淡褐黄色土 | 10. 褐色砂礫 |
| 5. 淡黄灰色土 | 11. 褐色砂質土 |
| 6. 黄褐色土 | |

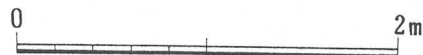


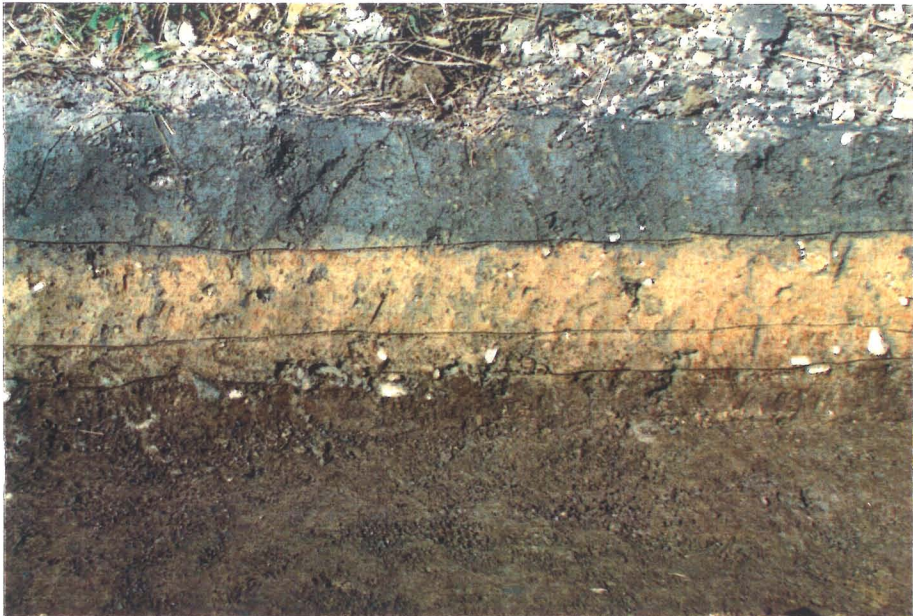
図4 土層断面図（北壁面）

9 まとめ

今回の確認調査では、若干の遺物の出土は見られたが、遺構は検出されなかった。ただ調査地点では、耕土から黄褐色土層にかけて比較的円礫を含んでおり、農作業に際しては障害になったと思われ、周辺に散在する「ぐろ」と呼ばれる礫の集積物の存在を理解するうえで参考になるものと考えられる。 工事に関しては、計画通り実施しても支障が無いと判断し、その旨工事担当者に通知した。



1. 第1坪 (南から)



2. 第3坪 (南から)



3. 第7坪 (南から)



4. 第9坪 (南から)



5. ぐろう



6. ぐろう

II 町道田中南線改良工事に伴う確認調査

- 1 所在地兵庫県揖保郡太子町太田字田中1494-1
- 2 調査主体者太子町教育委員会
- 3 調査担当者三村修次、田村三千夫、海野浩幸
- 4 調査期間平成3年11月21日～11月22日
- 5 調査面積10㎡

6 調査に至経過

太田字田中地区は、太子町の東部大津茂川の東岸に位置する。今回、町道田中南線の道路改良工事が行なわれる事になり、工事予定地北方には周知の遺跡である太田田中遺跡が存在する事から、同遺跡の南限確認も含めた遺跡確認調査を実施したものである。

調査地は、標高8.60m 前後の水田である。

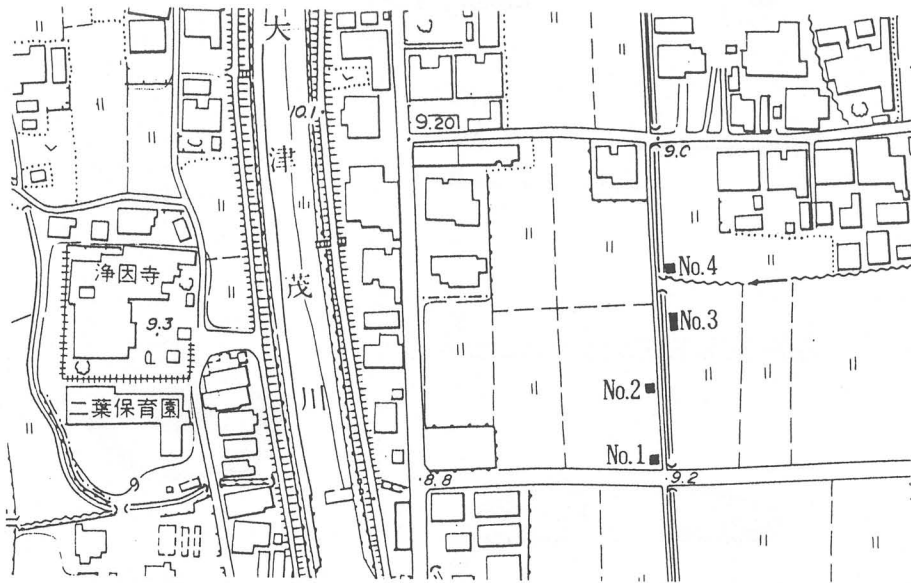


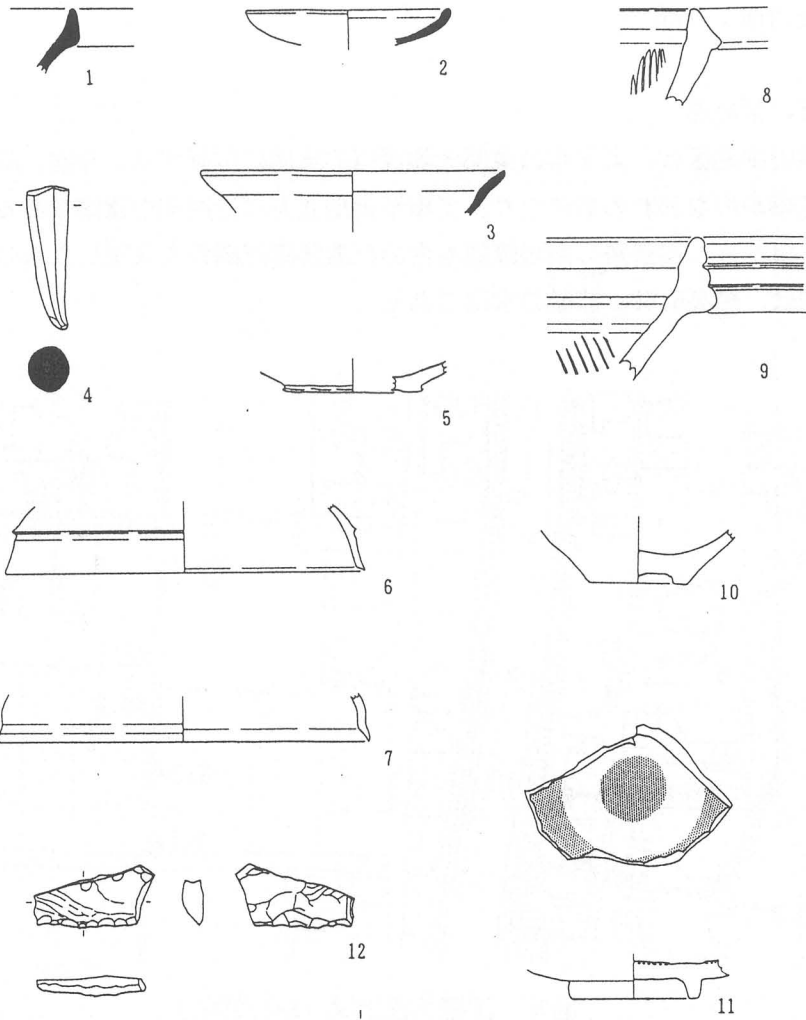
図5 試掘坪設定図 (S=1/2500)

7 調査概要

調査は、工事路線内に試掘坪4箇所を設定し、遺構が確認された場合は随時拡張する事とした。調査の結果、基本的土層は耕土(20～26cm)、灰黄色客土(8cm)、明灰色土(10cm)、淡黄色土(10cm)で明灰色粘質土となっており、この下層は青灰色粘土から青灰色砂層となっている。遺物は、各坪から若干出土した。遺構は、第3坪で土坑が検出された以外は、確認されなかった。

8 出土遺物

遺物は、弥生式土器片、須恵器片、土師器片、備前焼、近世陶磁器片等が、明灰色土から淡黄色土にかけて混在して出土した。いずれも流れ込みと考えらえる摩滅した細片が殆どであり、図示出来るものは少なかった。第3坪からは、サヌカイト製の石包丁片が出土している。



1 5. 第1坪出土、 2 4. 第2坪出土
3 8 ~ 12. 第3坪出土、 6 7. 第4坪出土

0 10cm

1~4. 土師器、 5~7. 須恵器、 8 9. 備前焼播鉢、 10. 唐津系陶器碗、
11. 産地不明青磁皿、 12. サヌカイト製石包丁

図6 太田田中出土遺物実測図

9 遺構

遺構は、第3坪で明灰色粘質土上面に掘り込まれた土坑が1基確認されただけである。

土坑は、浅いV字状の断面をし、南北1.50m、深さ0.12mを測る。西側は現在の畦畔下にのびており、全体形は不明である。遺物は出土しなかった。

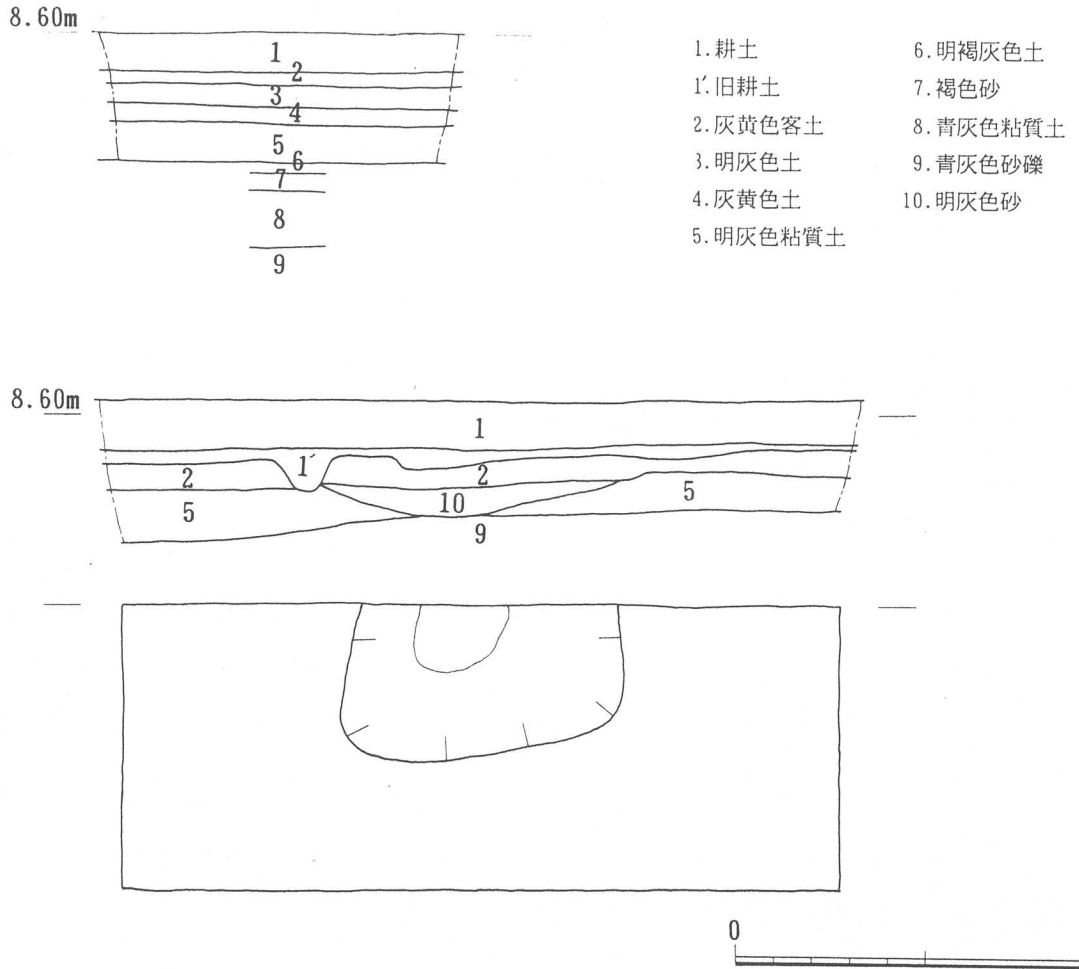


図7 土層断面図（西壁面）

10 まとめ

今回の確認調査地点では、時期不明の土坑が1基検出されただけで、太田田中遺跡に伴う遺構は確認されず、遺跡の範囲は及んでいない事がわかった。土層の観察からも、調査地点は大津茂川の影響を受けた低湿地であったと考えられる。工事に関しては、計画通り実施しても支障が無いと判断し、その旨工事担当者に通知した。



1. 第1坪 (東から)



2. 第3坪 (北東から)

